

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・KH	写真 GT
山行番号	NO. 1912		
日時	2021年3月22日(月) 晴れ		
山域	八ヶ岳・西岳(2398m)		
コース	長泉発6:00-富士見高原発8:41-不動清水9:15-氷現れる11:00-西岳12:15~44-標高2000m付近合流(昼食)13:43~14:02-富士見高原15:33-「みたまの湯」-長泉		
単純標高差	上り	富士見高原約1350m~西岳2398m=約1048m	
	下り	同上	
藪漕度	上り・下り	なし	
難易度	非常に困難	困難	やや困難 レ普通 やや易しい 易しい
<h2>延々と続く氷道</h2>			
参加者	後藤、加藤、斎藤(駿東山の会・ゲスト)、荒木(ゲスト)=4名		

斎藤さん達と2回目の登山。一回目は雪の富士山、上塚まで。この時はピカピカのアイゼンが初めてという荒木さんが雪の上を恐々と歩く姿が印象的だった。“初心忘るべからず”この言葉が思い返される一日でもあった。

「トイレは八ヶ岳でします。忘れ物はないですか？」筆記の会話から始まる。朝早い出発なので静岡在住の荒木さんは、斎藤さん宅に泊まったようだ。バタバタとした雰囲気伝わってくる。兎に角、荷物を車に乗せ出発。

朝から、身ぶり手ぶり、筆記での会話が賑やかで4人だけとは思えない。甲府南IC手前の道の両脇には、桜が満開。桃の花もピンクの蕾が膨らみあと少しで開花しそうだ。その向こうに見える甲斐駒、北岳、鳳凰三山の名前を、大きく口を開けて説明する。2人共凄く熱心に頷きながら口で反復していた。

前回の登山の時もそうだが、耳が聞こえないという事は世間の雑音が入ってこないという事だろうか？凄く純真無垢で、何にでも興味を示す子供の心をそのまま持っているような気がする。それがとても新鮮で心楽しい。



富士見高原

富士見高原西岳登山口駐車場着。トイレを済ませ、先ずはアスファルトの林道を出発。5～6分程でゲートをこえ唐松林を10分歩くと大きな沢を横切る。歩き始めて直ぐに、どうも斉藤さんの足取りが重い。富士山の時はタツタカ、タツタカ歩いて足が強い人だなという印象があったので、「どうした？」と聞くと、心臓がバクバクすると言いながら胸を抑える。後藤さんも心配して、昨夜は良く眠れたか、ご飯を食べてきたかと尋ねるが、どうも興奮して眠れなかったらしい。



不動清水



氷道

ゆっくり歩こうねと促し、更にカラマツ林を進んで行くと長命水のある「不動清水」に着く。大きな岩をくり抜いた中に管を通し、きれいな水が流れ出していた。不調の斉藤さんのザックから、ピッケルを加藤、アイゼンをCLに振り分ける。だが、ここから更に斉藤さんの足取りは重く牛歩の如くの歩みになる。トップの後藤さんとの差はどんどん開いていった。

少し歩いては腰を折り、手を膝に置いてハアハア息が荒い。大丈夫か？と尋ねると、「心臓がバクバク破裂しそうだ」とだいぶ苦しそうだ。これでは多分頂上には辿りつけない。

斉藤さんに、頂上に辿りつけなくてもいいか？尋ねると、又次回来るからもういいとの返事。じゃ無理をしないで、ゆっくり行ける所まで登ろうと、時折心配そうな表情で待ちながらも先を行く後藤さんを呼び止めた。

「斉藤さんの様子を見ながらゆっくり登るので、後藤さんは荒木さんを連れて頂上まで行って下さい。私達は下山した後藤さん達と会った所で引き返します。」

遅い私達を待ち待ち登っているのは、快調に登っている荒木さんも頂上に登れなくなってしまう。齊藤さんには申し訳ないが、了解を得て2人には先へ行って貰う事にした。

その後も、10歩、歩いては膝に手をつけてゼエゼエハアハア。顔をゆがめて苦しそうな表情に、このまま登ってもいいものか私も迷った。たんび、たんび、(たびたび=芝川の方言?) このまま登る?それとも下る?聞きながら歩く。

道の途中で、首のマッサージや肩もみ、ストレッチをしたりしてみたが、効果がない。首、肩、頭が重いというので齊藤さんのザックを私が背負って歩く。景色も林の中を歩くだけで変化はないが、道は登りやすく単調で有難い。

そんな状態でゆっくりと歩きながらも、それでも2000mまであがった。11:50分。松の大木が横たわる所で、前を見据え「ここで終わりにしたい」との齊藤さんの一声で私達は終了とする。



延々と氷道が続く(荒木さん)

計画書を見て、後藤さん達は予定通りであれば12時前には頂上へ着く。折り返して此処へ戻るのはいたい13時頃と推定して、其れまで腰を据えて待つことにした。丸太に座り会話が弾む。齊藤さんは私の口元を見て言葉を理解するので顔をみて話せば、余程難しい言い回しでなければ会話に支障がない。何だかんだと話しこんでいるうちに段々と身体が冷え込み、持参物全て着こんでもまだ寒く、2人で身体を動かしたりしていたが、我慢ができなくなり、まだかと時計を見ると既に13時を回っていた。

齊藤さんが荒木さんの心配をする。富士山の時もそうだったが、後輩の面倒見は良く常に荒木さんの事を考えている。齊藤さんに、後藤さんとの打ち合わせは出来ているから心配はないよと言ったが、携帯を車に置いてきた後藤さんとは連絡が取れず、荒木さんにメールを送っても気がつかない?それで、私も段々心配になってきた。もしや、何かあって困ってやしないかと不安になり、休んで元気を回復した齊藤さんと迎えに行く事にした。

この上から、鼻水のような蒼氷?スケートリンクのような分厚い氷の道となる。初めは迂回して歩いていたが、それも難しくなりアイゼンを装着。刃がキチッと食い込むのを確かめて氷の上にするが、それでもお尻が持ち上がるような恐さでビビってしまう。

この恐さは12月に富士山吉田口から登って、頂上直下を下った時以来だ。ピッケルを打ちこんでも、パンと跳ね返し、富士山用の鋭く尖ったアイゼンでも、一気に落ち込んだ斜面の下りは、恐くて足が前に進まなかった。富士山と西岳では比べようもないが、この氷の厚さはひけをとらない。こんなじゃ、後藤さん達も予定通りには着かないだろうなと思った。斉藤さんは歩きが完全に回復した。



編笠山



西岳頂上



右・権現岳、左・赤岳

その氷の上をしっかりと踏んで着々と歩く。うん。斉藤さんの体調が戻った・・・と一安心だ。静寂な林の中で「Gさ～ん！Gさ～ん！」2人で叫ぶ。誰もいない所で大きな声を出すのも気持ちがイイもんだ。何度か叫んでいるうちに「ヨロ・レイホ～、おお～い！」と反応があった。「良かった！帰ってきた！」こんな瞬間は超嬉しい！

不安が一気に吹き飛んで2人して大喜び。こういう経験をすると仲間意識が生まれるから不思議だ。荒木さんが、頂上の素晴らしさ？恐さ？大変さを一生懸命話してくれた。後藤さん曰く、荒木さんは足が強い！休憩なしで登った！荒木さん曰く、後藤さんは休憩もなしで登るので足がパンパン。とても大変だった。この会話のくい違いは何なのか？で、後日談・・・。荒木さんはその夜、足に湿布を20枚貼って寝たとか・・・。(´艸`)



御嶽神社と読める



下山

4人揃って、日当たりの良い所で遅いお昼をする。良く見ると、鹿の糞があちこちにあったが見ないふり。その中でラーメンを作って食べたが、オエツとなりそうで食が進まなかった。

斉藤さんの心配をしていた後藤さんが斉藤さんに話しかける。大きく口を開けて一語一語区切って話すが、斉藤さんにはそれがかえって通じにくいようだ。後藤さんに、普通に話すようその旨伝えるが、いつの間にか私が中に入り2人の通訳をしていた。



再会



昼食

既に14時と時間が遅く、昼食もそこそこに30分ほどで下山開始。下りは早い。不動清水の長命水を飲んだら100歳まで生きると言いながら荒木さんは何度も飲んでいて、斉藤さんは100歳まで生きたら顔しわくちや、首しわくちや、それもやだね！」と笑う。

私は75歳位まででもいいから太く短く生きたい。私が娘に何時もそう言うと、「お母さん大丈夫だよ。もう十分長生きしてるから！」と冷たい一言を放たれる。我が娘ながら「クソッ！」後藤さんも一旦は素通りしたが、又引き返して飲んでいて、80歳まで現役で山登りしたいという後藤さん100歳まで頑張るつもりか（笑）



下山

駐車場に全員無事に到着。登頂した事より無事に下山した事が一番。今回登頂出来なかった斉藤さんだが、又リベンジすると張り切っていた。

斉藤、荒木ペア いい仲間がいれば山は待っていてくれる。今回も2人のほのぼのとした関係が私に良い刺激を与えてくれた。有難う・・・と感謝の言葉に替えたいです。

難なく登ってくるのもいいが、挫折した山も又一味違って想い出深い。2人共良い思い出になった事と思いたい。

荒木さんの感想・・・

春の西岳登山を後藤さんと加藤さんに助けてもらいながら体験をさせていただきました。前回は冬山靴と12本アイゼンを初めて履いて幕岩、上塚登山体験をさせていただきました。靴が足首に

食い込んでとても痛かったので今回は緩めに縛ったので足首痛くはなりませんでした。

西岳登山の前日は大雨でしたので、西岳は大雪で、新鮮な雪の上を登るんだ！と胸ワクワクでした。ところがいくら登っても登っても雪は出て来ない。やあーい！新鮮な雪は何処へ？高度を上げるとピッカピカな氷の坂道。ヒヒューイ^^

こんなはずじゃなかった！大雪でなくて大雨だったんかあ。氷を避けてわずかにある雪の上を登り続けました。なんと長い急な坂。12本アイゼンが重く。やっと頂上着いた！ヤッホー！しかし雪が少ない！目の前にそびえ立つ編笠岳は雪があまりなく綺麗な白い姿が見えず、かすかな遠くに真っ白な甲斐駒岳、仙丈岳、が見えて満悦、(^o^)



Aさん、西岳で喜びがさく裂！！

下山は思い切って氷の坂の上を歩いてみました。カー杯上から押して一步一步。ザクッとザクッとアイゼンの刃が氷に食い込む感触が気持ちよかったです。今度はもっと綺麗な白い雪に埋もれた西岳に登って、真っ白な編笠岳を眺めたい！同行の斎藤さん、またリベンジしたいですね！

加藤さんがラーメン作ってくれて、皆で和気あいあいなランチタイム。危うく鹿のウンチの山の上に腰をかけるころでした。鹿さんに帰りの道で遭遇しました。ウンチの持ち主かな。(笑)最後に「みたまの湯」へ。遠方の山々を眺めながらの贅沢な温泉♨️でした。

丸一日後藤さん、加藤さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。「みたまの湯」で、ビールがとても美味かった～ア！！ 荒木珠美

斎藤さんの感想・・・

この日を楽しみにしていたが、出だしから体調が不調。2,000m地点で時間切れ、頂上登頂は果たせなかった。荒木さんが頑張り、登頂できたことが嬉しかった。

歩き始めてから10～30分後には身体が慣れてくるのに、どういうわけか、10歩進んでは休み、その繰り返しで一向に良くなるから、こりゃ、ヤバイっす。後ろで加藤さんがついてくれ、いくら精神安定剤になったが足取りが重い。食べ物や飲み物を胃に流しこむが、しっかり届いた感覚がない。肩・頸全体が痛くなり、頭も。しまいにはリュックを放り出したくなる。

一時荷物の負担をなくし、マッサージも受けたが最初だけで改善されない。11時半、2,000m付

近で大休止を取り、後藤さんたちを待つことに。

加藤さんと話したら、嬉しいことに私の声を聴き分けられ、口形がスムーズで分かり易いので話が弾んだのが大きな収穫だった。

かねてから私の知りたかった話題に触れることが出来、いくらか、腹を満たした。待てど待てど、後藤さんたちが現れないので少し、行ってみようかということで歩き始める。

程なくして、雪がちょび、ちょび現れたが凍っているのでアイゼンをつけ、登り始めたら息切れが収まって来たみたい。これならイケるかもと思った矢先に後藤さんと荒木さんが下りてきた。

荒木さんが興奮気味に「怖かった！頂上直前が急登でできなかった！頂上は思いのほか、雪が少なかった！！」などと細やかに話すものだからその情景が浮かび、共有することができた。やはり昨日の風雨もあろう、今年は雪がいつもより、少ないそうだ。

2年前の娘の登頂写真を見ていたので、こんもりとした雪を想像したのに、まだら模様の山々であったとか。お昼に加藤さん特製のラーメン、後藤さんの卵焼き…お手製のナマの玉ねぎが最高で、御馳走様でした。

登り始めからの樹林、落葉ふかふかのなだらかな登山道が続く、このコースもいいなあ。皆と揃っての登頂が出来なくて申し訳ないです。反省点が見えてきた。緊張、疲れ、睡眠不足も含めて、日ごろの生活習慣を見直し、改善すべく、戒めとしたい。

お二人様、企画、車の運転、何から何までお世話になりました。有難うございました。途中、長命水を飲んだので100歳まで生きられるよ。きっと。

西岳様、またリベンジします。その時までごきげんよう。 斎藤由利子

